

作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量 （岡山県）

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた作付面積（子実用）は2万7,800ha（前年産に比べ300ha減少）となった。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は2万6,900ha（前年産に比べ200ha減少）となった。

2 作柄概況

5月下旬から6月上旬及び6月下旬から7月中旬までの日照が平年より寡照で推移したことから分げつが抑制され、穂数は「少ない」となった。穂数が少ないことによる補償作用と幼穂形成期にあたる7月中旬から8月上旬が高温、多照で推移したため、1穂当たりもみ数は「多い」（南部：多い、中北部：やや多い）となり、全もみ数が「やや少ない」（南部：やや少ない、中北部：少ない）となった。8月中旬以降、台風第7号の影響等があったものの総じて気温が高めに推移したことや、9月下旬以降多照で推移したことから、登熟は「やや良」となった。

作柄としては、中北部において全もみ数が少なかったことが影響し、10a当たり収量は514kg（前年産に比べ10kg減少）、作柄表示地帯別では、南部で530kg（前年産に比べ5kg増加）、中北部で487kg（同34kg減少）となった。

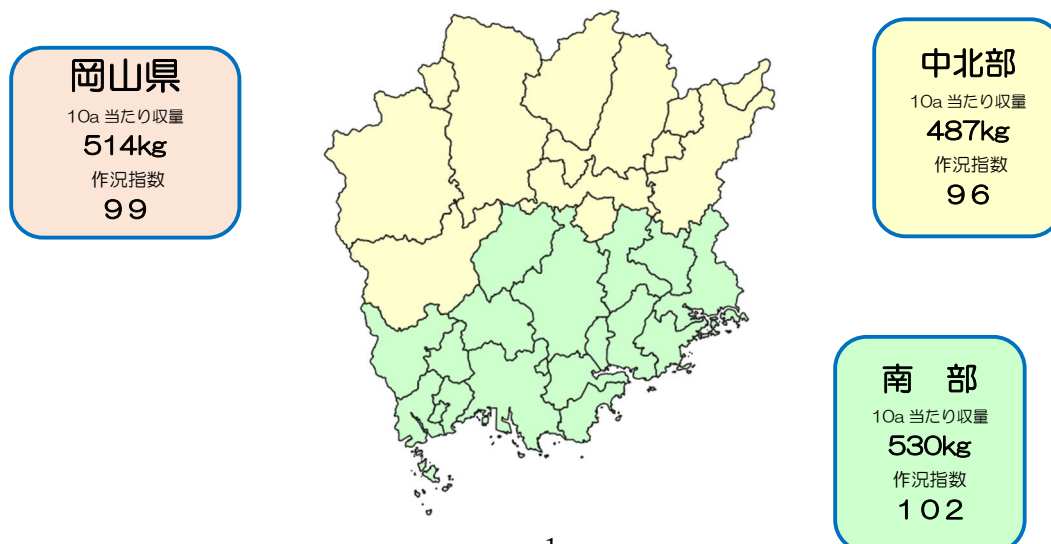
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」、作柄表示地帯別では、南部は102の「やや良」、中北部は96の「やや不良」となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は、14万2,900t（前年産に比べ4,300t減少）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、13万8,300t（前年産に比べ3,700t減少）となった。

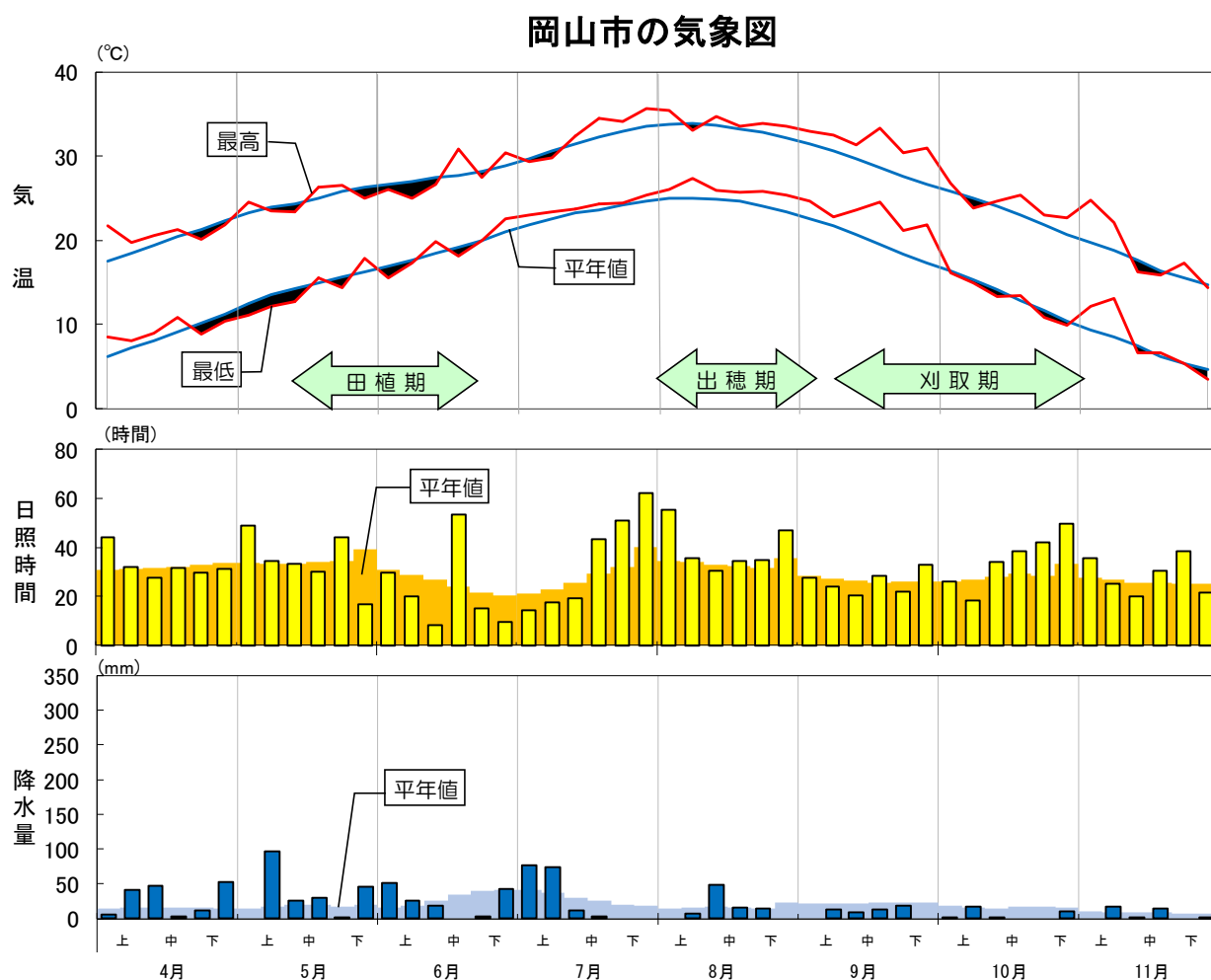
図 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



◎累年統計表

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
岡山県 平成25年産	33,100	512	169,500	32,000	163,800	97
26	32,600	493	160,700	31,100	153,300	94
27	31,000	505	156,600	29,600	149,500	96
28	30,400	533	162,000	29,200	155,600	101
29	30,100	544	163,700	29,100	158,300	103
30	30,200	517	156,100	29,400	152,000	98
令和元	30,100	517	155,600	29,300	151,500	98
2	29,800	505	150,500	28,900	145,900	95
3	28,800	524	150,900	27,900	146,200	99
4	28,100	524	147,200	27,100	142,000	99
5	27,800	514	142,900	26,900	138,300	99

◎半旬別気象図



資料：気象庁『アメダスデータ』

本資料は、「作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）」の補足資料です。

お問合せ先

中国四国農政局 統計部 統計調査チーム

電 話：086-899-8618